

君も知ってる？ 伊賀の忍者のあしあと

伊賀市では、平成29年2月22日(ニンニンニンの日)に「忍者市」を宣言しました。それから毎年2月を「忍者市月間」として、いろいろなイベントを行っています。今月号では、本当にいた忍者について、伊賀流忍者博物館学芸員の幸田 知春さんがリアルな忍者の姿を解説します。

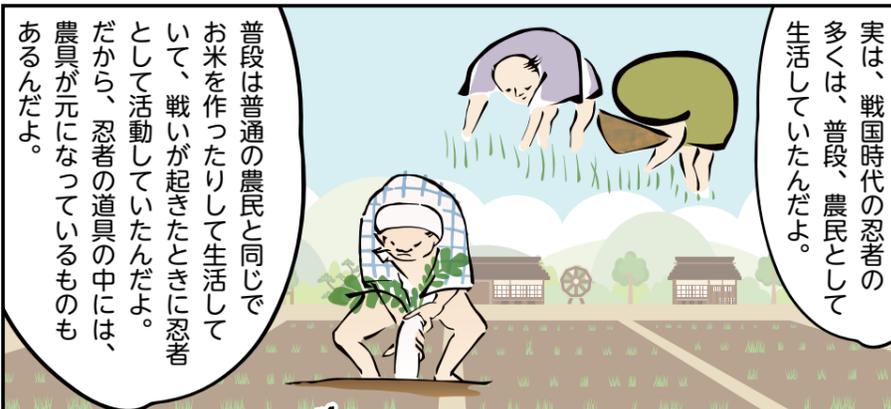


伊賀には昔、忍者がいたらしいけど、ホントなのかな？



伊賀流忍者博物館学芸員 幸田 知春さん

もちろんいたよ！でも、みんなが思っている忍者のイメージとは少し違うかもしれないね。



実は、戦国時代の忍者の多くは、普段、農民として生活していたんだよ。

普段は普通の農民と同じでお米を作ったりして生活していて、戦いが起きたときに忍者として活動していたんだよ。だから、忍者の道具の中には、農民が元になっているものもあるんだよ。



えっ、農民が忍者？
忍者って刀や手裏剣を使って敵と戦っていたんじゃないの？

たとえば…

| | |
|---|--|
| <p>かぎ縄 ロープの先にかぎ状の金属がついている道具。</p> | <p>鎖鎌 鎌の柄に鎖がついた忍者の武器。忍者は日用品を武器として使っていた。</p> |
|---|--|



忍者は戦うことが仕事じゃなくて、敵の情報を集めてくるのが一番の仕事だったんだよ。



アニメみたいに派手な戦いはしてなかったんだね。

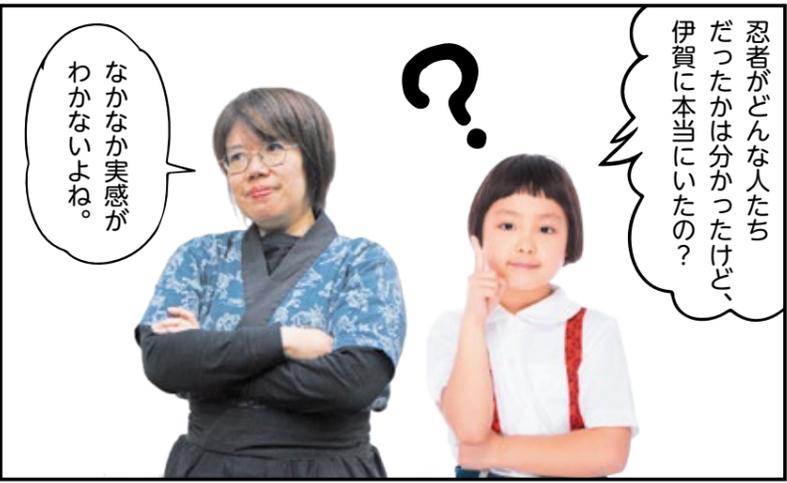
忍者の七方出
忍者は敵地に潜入するときに正体を隠すために変装をしました。江戸時代に書かれた忍術書には「七方出」として変装する職業が書かれています。山伏や商人、僧侶、農民、武士など、忍者は敵の情報を得るためにさまざまな職業に変装して目立たないようにしていました。

だから、忍者は変装をしたりして見つけられないようにして、城などに忍び込んだんだよ。

忍者のイメージが少し変わったかな？



実は、伊賀には今も忍者が暮らしていた名残がいろいろなところに残っているよ。



なかなか実感がわかないよね。

忍者がどんな人たちだったかは分かったけど、伊賀に本当にいたの？



忍町(上野忍町)
江戸時代、藤室藩に召し抱えられた忍者たちの屋敷があった地域。その名残が今でも地名に残っている。

たとえば…

手力神社(東湯舟1025)
忍者として有名な藤林長門守の氏神の神社。伊賀の忍者は火を使った忍術が得意だったとされており、手力神社の花火は藤林家が火を神社に奉納したことが始まりといわれている。



こんなにあったんだ！

徳永寺(柘植町23018)
本能寺の変が起きた際、徳川家康が伊賀の忍者に守られながら、三河(現在の愛知県)に向かった移動していた時に泊まったとされるお寺。その時のお礼として、瓦に葵紋を使うことを許され、今でもその瓦を見ることが出来る。

忍術について知りたくなったら伊賀流忍者博物館に行ってみよう！
また、日本遺産「忍びの里 伊賀・甲賀」公式ホームページでもリアルな忍者の姿を知ることができるよ。

「問い合わせ」観光戦略課
TEL 22・6670 FAX 22・6665
kankou@city.iga.lg.jp



忍者って伊賀では身近なところにいたんだね。

忍者は伊賀の誇り。市内には他にも忍者が関係している場所がたくさんあるから、ぜひ忍者たちの痕跡を探してみてね！